

健康・農業関連事業

重点的に取り組む
SDGs



自社の研究開発力を基盤に、世界の食糧、健康・衛生、環境問題の解決に貢献します。

事業内容

健康・農業関連事業部門では、特長ある農薬・農業資材やメチオニンなどをグローバルに提供することで、食糧の生産性向上に寄与しています。

コア・コンピタンス

自社開発の優れた化学農薬に加え、バイオラショナルやポストハーベストなど高いシェアを持つユニークな農薬や農業資材を品揃えし、グローバルに販売しています。当社の農薬事業の強みは、特長ある農薬の品揃えとそれを生み出す研究開発力、グローバルな販売網です。また、メチオニン事業では、高い生産技術を活かし、製品を原料から一貫生産し安定供給しています。

基本戦略

現在は、農薬・農業資材の製品力のさらなる強化、グローバルフットプリント(自社の販売網)の拡大、新規農薬の着実な開発・上市に取り組んでいます。加えて、メチオニンの競争力強化により、同事業のアジアでのリーダーとしての地位を確固たるものにすべく取り組んでいます。

2020年度の取り組み実績

ニューファーム社からの南米農薬事業の買収を完了し、コロナ禍の中ではありましたが、統合プロセスを順調に進めたほか、新規殺菌剤インディフリンを日本と北米で上市しました。また、バイオラショナル事業を強化すべく、専門の販売組織のグローバル展開を図りました。

今後の取り組み課題

次世代大型農薬の開発を加速し早期の上市を目指すほか、大型戦略投資を実施した南米やインドにおいて、統合シナジーの最大化に注力します。また、バイオラショナルや種子処理など、当社が強みを持つ分野の事業の拡大にも取り組みます。メチオニンについても、徹底した合理化により、さらなる競争力強化に取り組んでいきます。

長期に目指す姿

自社の研究開発力を基盤に、世界の食糧、健康・衛生、環境問題の解決に貢献することにより、事業規模の拡大を目指します。



代表取締役 専務執行役員

水戸 信彰

主要事業のSWOT分析

S
強み

- 高い研究開発力と充実したパイプライン
- ニッチ分野でのユニークな技術・製品
- 高シェアを有する製品群
- 海外大手メーカーとの提携関係
- トータル・ソリューションの提供

W
弱み

- 競合大手と比べ小さい事業規模

O
機会

- 人口増加に伴う食糧需要の拡大
- 農業関連事業の事業規模拡大
- 生活環境事業の周辺・川下分野での需要拡大
- 化学農薬の規制強化によるバイオラショナル市場の成長の加速

T
脅威

- 化学農薬の規制強化
- オフパテント農薬との競合拡大
- バイオラショナル分野への海外大手農薬プレイヤーの本格参入

事業紹介

■ 農業関連事業 [化学農薬、バイオリショナル、肥料、コメなど]

化学農薬

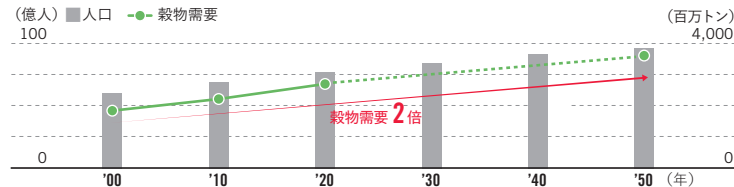
- 農作物などに被害をもたらす多くの種類の害虫に効果を発揮する殺虫剤
- 作物に応じた除草剤
- 農作物の病気を防除する殺菌剤

バイオリショナル

- 天然物由来の成分を活用した微生物農薬、植物生長調整剤、根圏微生物資材など

市場環境

世界の人口と穀物需要
(億人) ■人口 ●穀物需要



(出所) FAO, "World agriculture: towards 2030/50"; 農林水産省, UN Population Fund / UN (2017), World Population Prospects: The 2017 Revision

重点施策

- 買収などを通じ、フットプリントの強化を図ってきた成長市場(南米・インド)における事業規模の拡大
- 次世代大型農薬の開発・上市の加速
- 種子処理事業の強化・拡大
- 高い市場成長が見込まれるバイオリショナル事業の強化・拡大

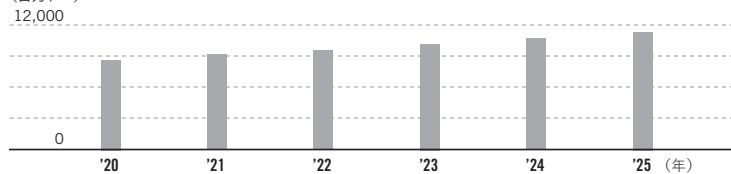
■ 生活環境事業 [家庭用殺虫剤、防疫用殺虫剤、熱帯感染症対策製品、動物用医薬品など]

家庭用殺虫剤

- 殺虫剤(蚊取り線香、液体蚊取り、エアゾールなど)
- 虫除け樹脂製剤などに用いられるピレスロイド系薬剤とそのデバイス

市場環境

家庭用殺虫剤の市場予測
(百万ドル)



(出所) Euromonitor International

重点施策

- 原体販売事業におけるソリューション提案力の強化
- 業務用防疫薬、熱帯感染症対策分野でのブランド製品事業の拡大
- ボタニカル製品群の販売拡大

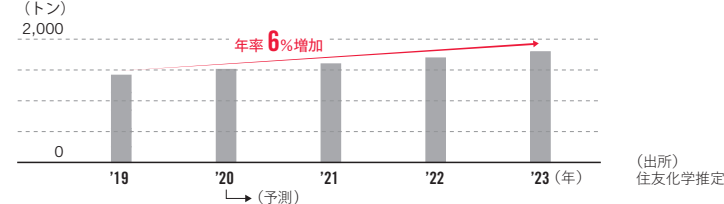
■ 飼料添加物事業 [メチオニン]

メチオニン

- 主に養鶏に用いられるメチオニン
(メチオニンは必須アミノ酸の一種で、飼育対象動物の成長を促進する働きがある)

市場環境

メチオニン需要予測
(トン)



(出所) 住友化学推定

重点施策

- 市場成長に沿った安定供給の継続
- コスト合理化の徹底
- 製品ポートフォリオの拡大

■ 医薬化学品事業 [低分子医薬品原薬、核酸医薬品原薬など]

低分子医薬品原薬

- 国内外の製薬企業に供給する医薬品の有効成分(原薬)およびその中間体

核酸医薬品原薬

- 核酸医薬品(DNAやRNAを用いる医薬品)の原薬

市場環境

医薬品市場、特に新薬(特許品)市場が成長中

製薬企業は新薬の研究開発・販売活動に経営資源を集中

原薬の外部製造委託市場は成長が続く

重点施策

- 低分子医薬品の需要増加に対応した生産体制の整備
- 核酸医薬分野における事業化の加速

▶ Investors' Handbook 2021 P63

Q&A 世界の競合メーカーに伍するために

Q 近年、海外の大手農薬メーカーの再編が進み、住友化学と大手メーカーとの農薬事業の規模の差が拡大していますが、今後どのように戦っていくのですか。

A 2017年にはダウとデュポン、2018年にはバイエルとモンサントが合併し、巨大なプレイヤーが誕生しました。しかし、当社はそれに倣って他社と合併する考えは現時点ではありません。世界の競合メーカーに伍していくため、次の3つの戦略をとっています。

① 研究開発力で勝負

生物は、時間の経過とともに必ず農薬に対する抵抗性を発揮するようになります。このため、新規の農薬を絶えず開発していく必要があり、そのためには研究開発力が非常に重要です。当社の特許件数は、海外の大手農薬メーカーと比較しても決して見劣りしないものであり、当社はこの研究開発力に根差した農薬メーカーとして今後も戦っていく考えです。

▶ [Investors' Handbook 2021 P55](#)

② 充実したグローバルフットプリントで勝負

世界中のあらゆる地域へ製品を届ける大手と比較すると、数年前までの当社のグローバルフットプリントは十分とはいえませんでした。しかし、近年はインドのエクセルクロップケア社を2016年に買収したほか、2020年にニューファ-

ム社の南米事業を買収するなど、グローバルフットプリントの強化のための取り組みを着実に進めています。また、開発した農薬は、自らのグローバルフットプリントを活用し販売するだけでなく、海外の大手農薬メーカーの防除体系に組み込んで販売してもらうことで、より広い地域へのアクセスを可能にしています。

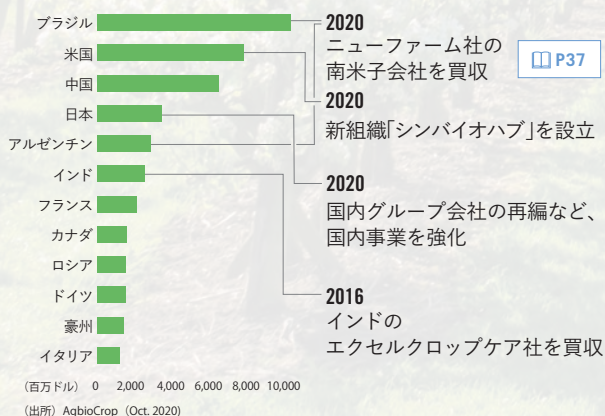
③ バイオラショナルと化学農薬の二本柱で勝負

海外大手の合併は、化学農薬と遺伝子組み換え作物の品揃え強化を主な目的としているとみられますが、大規模な投資が必要で、かつ海外大手メーカーの主戦場である遺伝子組み換え作物の分野に当社が参入する考えはありません。当社は化学農薬と世界トップであるバイオラショナルの市場で、独自の研究開発力を活かし、特徴ある製品ラインアップを武器に勝負していきたいと考えています。バイオラショナルの分野は、今後市場の拡大が加速していくことが予想され、海外大手農薬メーカーの参入も本格化し、競争の激化が進むと想像されます。当社も一層当該分野の事業強化に注力し、リーディングカンパニーとしての地位を確固たるものとしていきます。

グローバル展開の状況

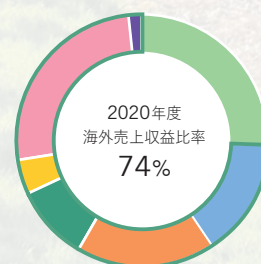
農薬事業のグローバル展開は、1960年代前半、北米に殺虫剤スミチオンの輸出を開始したことから始まりました。その後、1988年にベーラントU.S.A.社を設立して以降、世界各地に研究・生産・販売の拠点を構えています。地域によって気候や農作物はさまざまであるため、その地域に合った製品の開発や、各地のニーズへの迅速な対応を可能にする体制を構築しています。これまでに、世界の主要農薬市場である欧米やアジア、南米などにおいて拠点を拡充してきており、現在は特に世界農薬市場トップ6か国中、5か国における販売機能の確保・強化を推進しています。

各国農薬市場の規模(2019年)



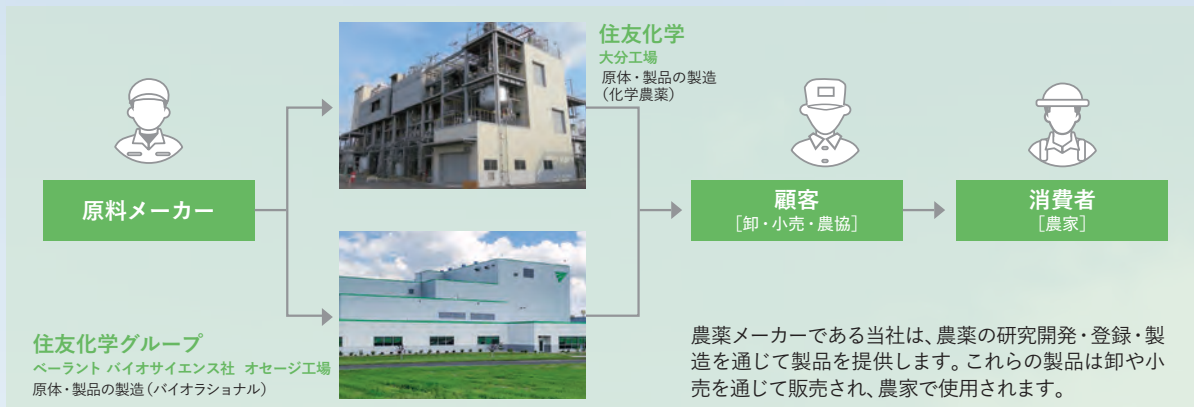
地域別売上収益比率

■ 日本 ■ アジア(含むインド) ■ 北米 ■ 欧州
■ 中東・アフリカ ■ 中南米 ■ オセアニア他



価値創造モデル：海外農薬事業

バリューチェーン



付加価値を提供する仕組み

住友化学の競争優位性

世界の農薬市場には、欧米の大手メーカーから比較的規模の小さなメーカーまで、多数のメーカーが存在しています。農薬は地域や作物によりニーズが大きく異なります。当社は、化学農薬とバイオラショナルからなる製品ポートフォリオを活かして、世界の各市場でユニークなポジショニングを追求しています。基礎的探索研究から応用開発研究まで、長期的視野で新規ソリューション開発に取り組んでおり、これらを通じて得た独自の製品や技術が、当社の競争優位性の基盤となっています。



健康・農業関連事業研究所

競争優位を生む主要プロセス

新規ソリューション開発のために重要な基礎的探索研究では、新しい農薬の有効成分を探します。ここでは効果だけでなく、人や環境への安全性も評価します。グローバルな研究開発ネットワークを活用して、できるだけ早く新しいソリューションを開発できるよう取り組んでいます。また、応用開発研究では、既存の有効成分を活用した新しい農薬製剤や新たな農薬の使用方法を探索しています。



バイオラショナルの技術指導の様子

顧客価値提供

農家は、農薬を使用することで、農作物の品質および収量を向上させたいと考えています。また、農作業を効率化し、収益性を高めることも期待しています。それと同時に農薬が農薬の使用者や農産物の消費者の健康に害を及ぼすことのないように、安全・安心も追求しています。このため、当社は顧客のニーズにあった効果が高くユニークな製品を提供します。地域や作物ごとのニーズを捉えたソリューションをつくり出すことで、持続可能な新しい農業技術の構築に貢献します。

社会に提供する付加価値



食糧の生産性を向上させることで食糧の安定供給に貢献

海外農薬事業の製品のひとつである植物生長調整剤は、果実や野菜の実の付きを良くする、大きくする、品質を良くするなどの効果があります。さらに、作物の開花期や熟期の調整が可能であるため、気候変動により低温化や乾燥化が進んだ地域での作物の栽培にも対応し、世界各地での食糧増産に貢献しています。世界的な人口増加と世界経済の発展に伴い、安全・安心な食糧の需要が高まっています。当社はユニークな資材をグローバルに提供することで食糧の生産性を向上させ、食糧の安定供給に貢献することを目指します。